

認知症を自分事として考え動く人材とつながりを大切に

～住民力を活かして認知症施策を草の根で一体的に展開～



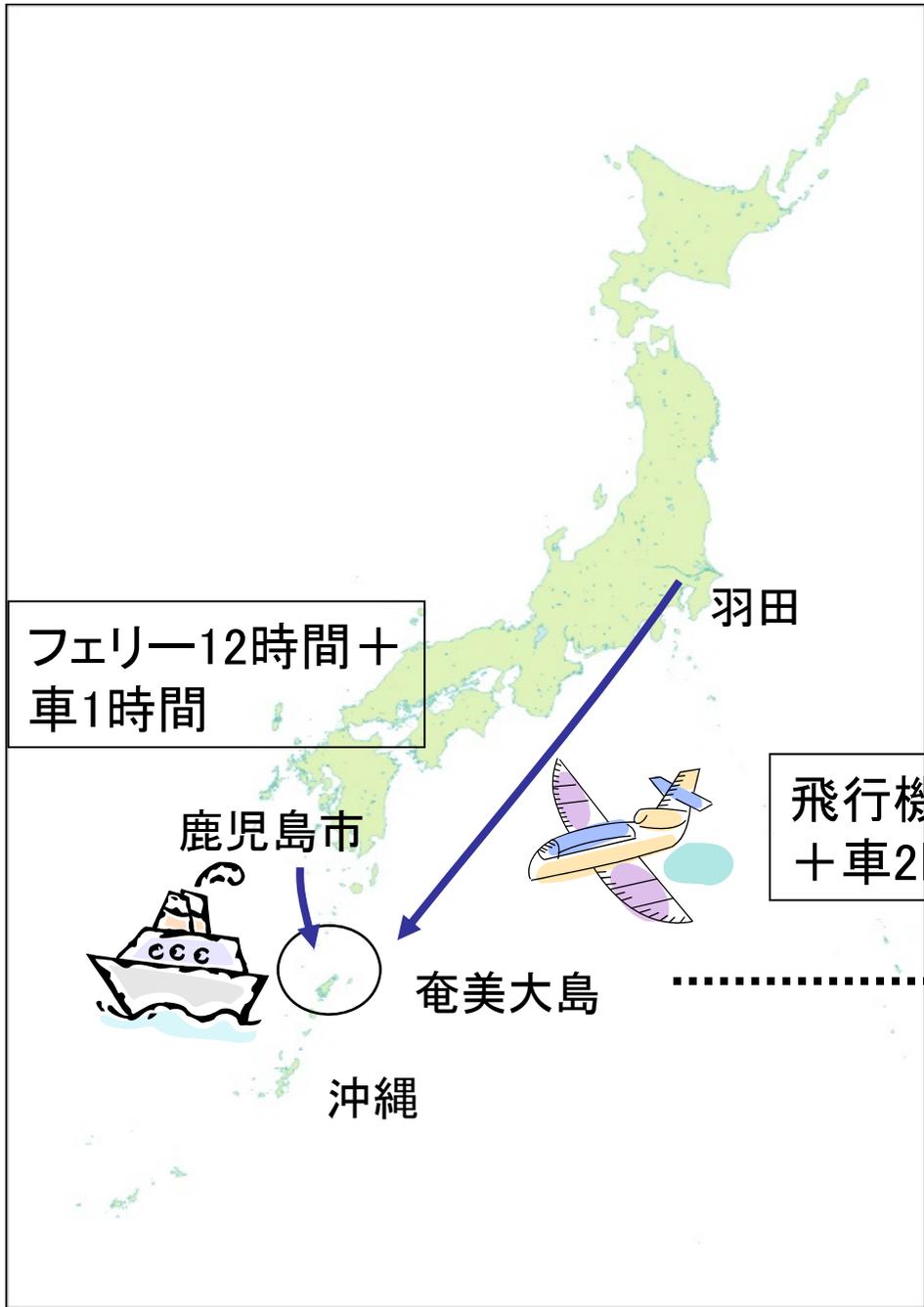
①なぜ取組が必要と思ったか

②どう取り組んだか

③住民主体活動からつながる事例

④現在～今後の展開





大和村役場



保健福祉課 &
地域包括支援センター



さとうきび発祥の地！

住民グループの加工品が 増えてきた



タンカン



スモモ



アマミノクロウサギ



シマの伝統文化



自分の選んだ場所で安心して心豊かに暮らしたい



大和村の夕日

現実には？

住みたい場所でのんびり暮らせそう？

本当は家がいいけど
迷惑かけたくないから・・・

家族の希望で・・・

島外の子供宅へ行ったが
やっぱり帰りたい・・・



介護・医療サービスは以前より整ってきてても
主体性を大事にできるしくみはまだまだ

顔見知りでつながりも強いから大丈夫でしょ？

困り事に手を出すは別？

認知症みたいだけど

知らないふりが丸く？



近所づきあい・・・

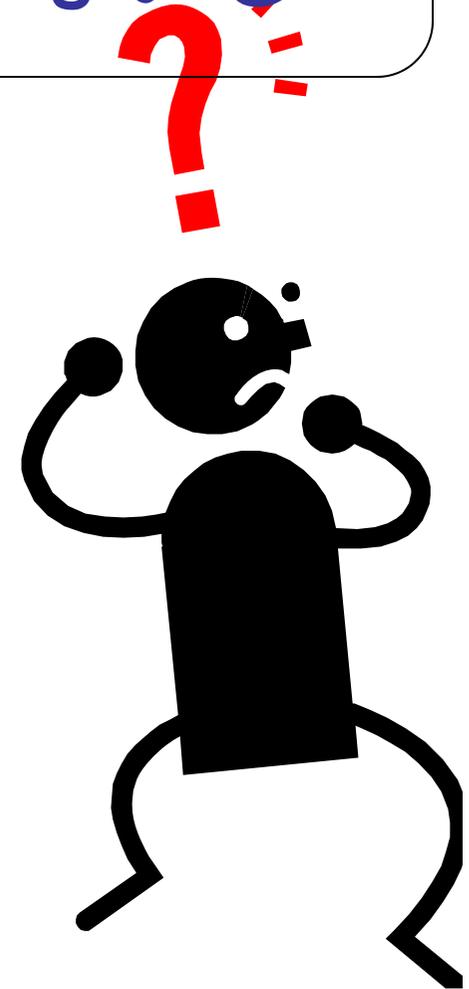
うわさ話・・・



社会資源も少ないし
少子高齢化で仕方ないし

やっても無駄
あきらめよう..

自分が暮らす地域
本当にそれでいいの？



①なぜ取組が必要と思ったか

②どう取り組んだか

③住民主体活動からつながる事例

④現在～今後の展開



日頃の疑問・・

つながりはあるのに福祉に弱い？

→いかしきれていないかも

→公的サービスがつながりを弱めている部分も



社会資源が少ない？

・・・見つけていないかも

人が少ないからできない？

・・・少ないからこそできるかも

やっても無理？

・・・全部はやってないかも

できない理由探しをするとずっとすすまない
地域にあるものをいかす・強める



大和村の井戸端会議

無理と思ったら結局そこまで

日頃の疑問・・・



立派な計画書もある
頑張る人々がいるのに繋がらない
・・・方向性がバラバラ？

たくさん事業をしても発展しない続かない
いつまでも解決しない
届けたい人には届かない

「また同じ人が困ってる」認知症・虐待・借金・不登校・・・縦割りの対象ではなくそこに暮らす人の生活を見る総合的な視点が必要
・・・やり方が間違っているかも？

認知症サポーター
認知症講演会・・・

やらされたものは発展しない、続かない

そこに暮らす人が動かねば住みたい地域はつukれない



大和村の海

答えもヒントも、そこに生活する住民がもっている！
→住民の生活の福祉の営みをベースに、しっかり確認しながら

住民が主体となった活動による地域づくり(大和村)

○そこに住む住民自らが動かなければ暮らしたい地域はつくられない。住民が主体となった活動の展開にこそ、生きがい、役割、出番、楽しみがうまれてくる。そこに言葉をあてはめれば、地域版のデイサービス、サロン、企業、介護予防、健康づくり、世代間交流、自殺対策、閉じこもり予防・・・が網羅されていくということ、地域住民が教えてくれている。行政が形をつくるのではなく、ご近所を中心とした地域住民の営みからヒントを見つけ引き出す地域づくり。

23年度

24年度



行政の役割

話し合いの場提供

住民と一緒に考える

動きを見守る

住民のもとへ足を運ぶ

住民への情報提供

必要なら財政支援

住民の動きを他に伝える

住民主体活動が広がる 平成23年度4グループ → 平成29年度11グループ (全集落に1~2)



制度に左右されない本当の意味での足腰の強い福祉

①なぜ取組が必要と思ったか

②どう取り組んだか

③住民主体活動からつながる事例

④現在～今後の展開



集いの形いろいろ(認知症カフェみたいな)



手作り小屋



あずまや



公民館



グラウンドゴルフ場



畑



認知症の症状があっても「見慣れた場」「顔見知り」の中で

(認知症の症状がある方も含む)活動いろいろ

集う(場の提供)



働く・役割
(役割づくり)



育む
(子供の学習文化)



見守る
(声かけ・安否確認等)



認知症の症状があっても「できること」を見つけて
(日常生活を知っているからこそ)

暮らす
(買い物、健康づくり、
防災等)



住民主体活動によって認知症があっても役割がいかされる事例



自分の庭にある花を、ご近所サロンに毎週もってきてくれる方



自分もお客さんだが、常連なので別のお客さんを笑わせてもてなす方



「小学生が学校で作った手作り紙芝居をサロンで披露した」



認知症の症状があるAさんも喜んで鑑賞していたので



「今度、Aさんたちに昔話を教えてもらい、それを小学生が紙芝居にしてまた披露したらいいんじゃない」

byお世話焼きさん

公的サービスでは対応できなかったが地域互助の力で住民が力を取り戻した事例



専門家の提案だと

デイサービス

物忘れ外来受診

介護予防教室

拒否

住民活動だとうなった

- ①同級生のご近所さんが「一緒にサロンでコーヒー飲もう」
- ②「久しぶり～！次も来てね、待ってる！」と言われリピーターに
- ③NHKがサロンの取材に来た
- ④「元気になった人」として自宅取材を受けテレビ放映される
- ⑤「テレビ観たよ！」と島外在住の親戚からも電話を受け喜ぶ
- ⑥入れ歯の治療に行く
- ⑦服がちょっとおしゃれになる
- ⑧娘が手作りの服を送る
- ⑨「娘が作ったの」とサロンで披露する



「役割」「生きがい」「楽しみ」「喜び」の力で本人が力を取り戻す

認知症の方のご近所版ケース会議(ご近所会議)が何かにつながる事例



俺の父ちゃん認知症、よろしく!
(大事な一言、すごいね~)

いいねん、ご機嫌だから

嫌なこと忘れてよかった

便ムリ!

介護者の心得を学ぶ
(周囲も手出ししやすくなる)

すごく歩いてる
14時と16時にみかける

一緒にウォーキング

力を合わせて
本人の生活に
あった具体策

光るベストでパトロール

うちの近くでおしっこ

デイサービスでは津軽海峡冬景色が18番
(じゃあ老人クラブに誘って歌ってもらおう)

役割創出

何だか気軽な会だな

認知症でも
大丈夫かも

麻雀おいで

介護者支援

こうやって考えてもらえて心強い

安心感

うちよりそっちが大変じゃん!

ピアカウンセリング

早めに受診しよう

セルフケアカアッ

「何気ないこと」が何かにつながり大事。見えないところにも大きな意味が

①なぜ取組が必要と思ったか

②どう取り組んだか

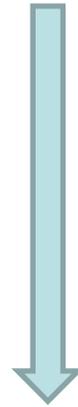
③住民主体活動からつながる事例

④現在～今後の展開



「認知症？」

「施設に入れた方がいいんじゃない」



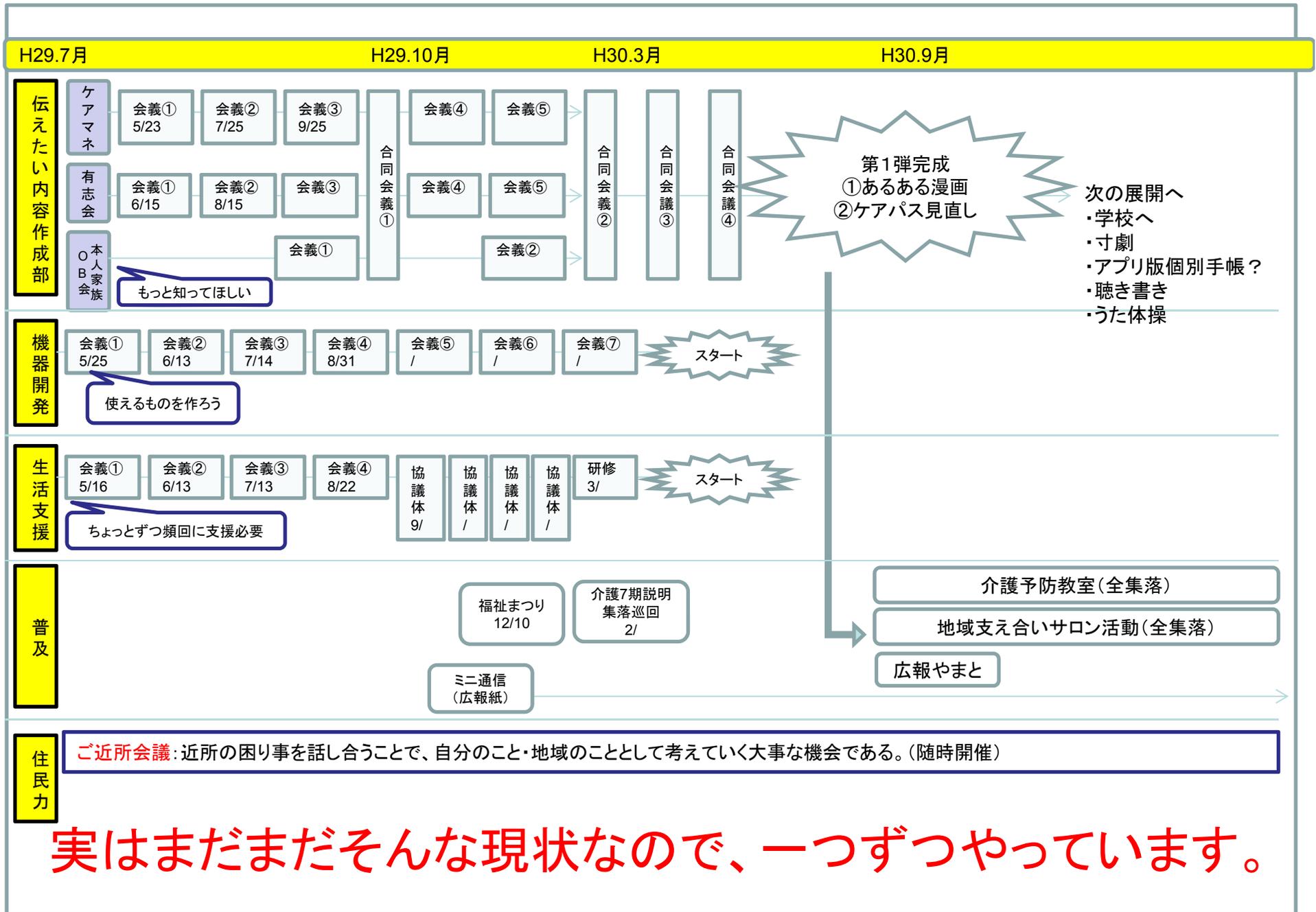
「みんなで見守るから大丈夫」へ

(欲を言えば「だから？」)



実はまだまだそんな現状なので、一つずつやっています。

「認知症は施設へ」から「皆で見守るから大丈夫！」と言える大和村を目指して(現在～来年位までの計画)



実はまだまだそんな現状なので、一つずつやっています。

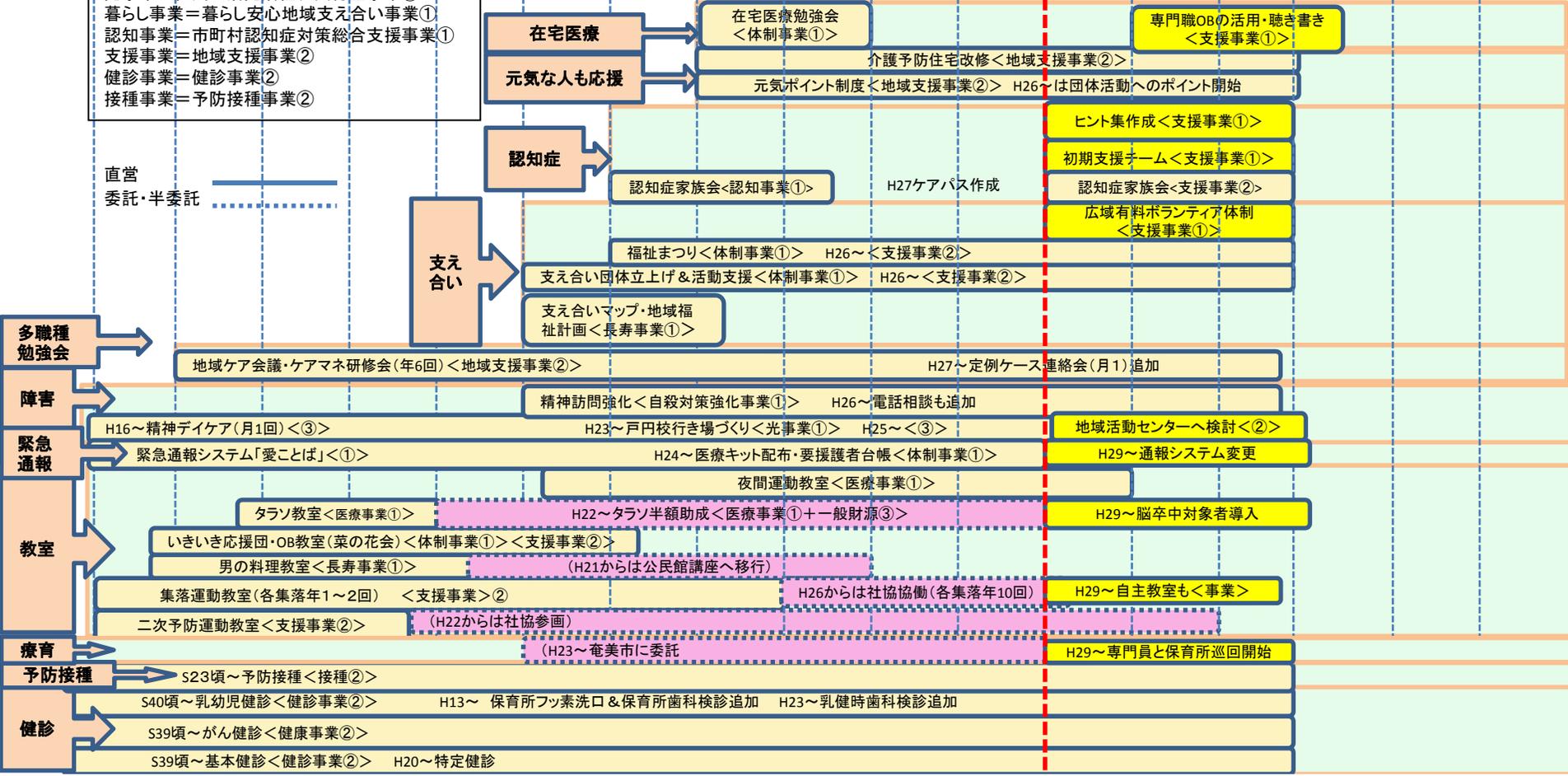
「安心して心豊かに自分らしく暮らす」ために本人主体の地域づくりを目指した事業展開図

H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 作成:大和村 早川理恵

包括設置

- ①=100%補助事業
- ②=一部補助
- ③=補助なし
- 体制事業=地域ケア体制整備モデル事業①
- 長寿事業=長寿社会づくりソフト事業①
- 医療事業=医療費適正化事業①
- 自対事業=自殺対策強化事業①
- 光事業=住民生活活性化交付金事業①
- 暮らし事業=暮らし安心地域支え合い事業①
- 認知事業=市町村認知症対策総合支援事業①
- 支援事業=地域支援事業②
- 健診事業=健診事業②
- 接種事業=予防接種事業②

直営
委託・半委託



大きい地域でも小さい地域でもやる人はやる



小さい個別解決の積み上げ→気づきの広がりが地域の方に
長い目で 一歩一歩